

# 長崎浦上街道

【NAGASAKI-URAKAMI ROAD】

右の写真 / 浦上街道の起点(長崎市西坂町)

明治  
Meiji  
Japanese  
スク  
4

CHOHO  
06

## 世界に誇る、 珠玉のコレクション

写真技術は日本が開国する前後に長崎で確立し、日本全国に伝わりました。当時、日本の写真術の開祖と称される上野彦馬らが活躍。膨大な数の長崎の写真が残されており、長崎は写真史においても重要な場所といえます。

長崎大学が所蔵する「幕末・明治期 日本古写真コレクション」の内容は、主に外国人居留地である長崎・横浜を中心に、東京、京都、大阪、神戸やその他の観光地の風景・風俗・人物などを撮影したものです。その多くは当時の職業絵師により彩色されています。総点数は約6,000点(2003年3月末日現在)。近代日本の生い立ちを研究する貴重な資料として、我が国多数のコレクションになっています。

このコーナーでは長崎大学が所蔵するコレクションを基にそれにまつわるエピソード等を交えながら紹介していきます。



長崎浦上街道(絵はがき) 所蔵:長崎大学附属図書館 [サイズ縦9.1cm×横14.2cm] 写真に彩色して平版印刷

「浦上街道」は、1597年に西坂の丘で殉教した日本二十六聖人が長崎入りする際、通ったことで知られる。また、1691年、出島のオランダ商館付医師ケンペルの一行も江戸参府の際、この街道を利用した。

## 街道筋を流れる浦上川の風景

### 時津街道筋の浦上川の風景

「浦上街道」の途中の風景である。この通りは「NHK長崎」の上の西坂を起点とし、時津に至る「時津街道」の道筋にあたる。

西坂から浦上村馬込―山里―平野―中野―平敷―家ノ郷土橋―滑石―打坂―継石―飛石―時津と一つのながその頃のおよその道順である。ちなみに時津からは船で大村湾を渡り東彼杵に上陸。ここから先は嬉野、小田、佐賀、原田、飯塚、黒崎などを經由し小倉に至る。いわゆる「長崎街道」である。

この写真の撮影場所は、背後の山並みと右手の浦上川に流れ込む三筋の川のつち家ノ川の辺りであらそ土橋(現大橋)付近の風景と推定してよいだろう。

荷物を背にした馬を牽き、浅く清らかな浦上川の流れをゆくり歩いてくる三人の男たちがいる。街道の松は緑ゆたかたで、背後の山には段々畑が見える。左手奥の家は農家と思われるが、屋根は瓦葺きである。その手前の馬込郷の海岸の突端には天王山聖徳寺があり、その奥には船江が入り込んで、深江と称していた。浦上川では白魚がとれた。『長崎名勝図絵』浦上村の図参照)。しかし時代が下るに従ってこの辺りの堆積地は埋め立てられ、開墾されて新田にかわった。



『長崎名勝図絵』浦上村の図(長崎市立博物館)

### 明治末期の印刷技術を垣間見る

「CARTES」の写真は、絵はがきに印刷されたものであるが、裏面のタンプ発信の日付から明治末年ないし大正初年に撮影されたと思われる。写真のできれば美しく、秀逸である。版面から多色平版オフセットによる写真印刷と推測する。当時の技術から見ると、おそろモノクロ写真に彩色したものを原版としたのである。

オフセット印刷機は、明治三十九年(一九〇六)アメリカ人のアリス兄弟が実用化して市販した。日本でもアリス型をモデルにして明治四十五年(一九一〇)に大阪で制作し、東京で「おそろ」として国産の多色印刷機が実用化された。

この絵はがきは、その時期に制作され長崎で販売されたものであろう。裏面にはフランス語で大きく「CARTES POSTALES」に下イット語「スイス語、英語、ロシア語」向様に印字されている。セツトとおぼしき同サイズの「長崎悟慎寺」「崇福寺山門」「出雲町全景」「縣立中学校」「茂木街道ノ水車」「茂木街道上桐原茶店」「稲佐公園」などのカードがある。これはその中の一枚である。

長崎浦上街道(絵はがき裏面)

Mes. D. Sommers/221 Noe St. / San Francisco California 4/20/14  
Greetings from Nagasaki. I'll stay here till Thursday. Expect to arrive in Honolulu about May 3rd. Bestest Jim.

大正3年(1914)4月20日、長崎滞在中のジムが、カリフォルニアのミセス・ソマーズ宛てに投函。「木曜日までここにどまり、5月3日にはハワイのホノルルに到着する予定だ」と記されている。この3ヶ月後の8月16日、第一次世界大戦勃発。彼は無事にアメリカ本土へ帰着いたのであろうか。

